



Title	編輯を終へて
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懐徳. 1932, 10, p. 86-87
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88872
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

編輯を終へて

酒井全太郎

拜見、八幡神社に參詣、長濱驛發多賀驛下車
多賀神社に參拜、「三年、一年でもいゝ。それ
がいゝすぎなら三十日でもよい」と「おつか
さんのいのちを願はれた」秀吉の延命祈願文
など拜觀する。

十月二日 豊太閣史蹟見學第四回

山崎驛下車、離宮八幡、寶積寺に參詣、天王
山頂にて中村直勝先生の講演あり、離宮八幡
にて文書を、水無瀬宮にて寶物を拜觀、櫻井
驛見學解散する。御多忙の中を毎回特に臨場
講演に説明に、懇切に御指導賜りし中村先生
の御芳情は會員一同の深く感激するところで
ある。

昨秋、滿洲事變突發以來一年有餘、興亡の岐路
に立つ我が帝國は、皇軍勇士鮮血の犠牲と舉國
殉難精神の發揚とによりて、歩一步、皇運發展
の一路を進みつゝある。大事なのは「これから」
である。祖先を辱めず子孫に悔を殘さぬやう、
見事此の重大事局を乗切らねばならぬ。巻頭に
服部先生の「誠に就て」の講話を掲げて、皇道
王道のよつて來るところを明らかにし、矢野先
生の「滿洲は支那にあらず」の説を載せて問題
の核心を闡明し、聊か貢獻するところあらんこ
とを念頭とした。鈴木先生の漢詩、中井、江崎
兩先生の玉稿、ともに錦上更に花を添ふるもの

である。平素、もう二三年だと仰つしやつて楽しんでゐられた毛詩研究の業成らず、人生感意氣、功名誰復論云々の語を辭世として急逝せられし財津先生の遺稿を編輯して、故先生追慕の資に供することゝした。遺稿蒐集に就て指導を賜りし石濱、柏原兩先生及び城野氏の御盡力を厚く感謝する。堂友小沼君天壽を完ふして今春安眠せらる。本會創立以來の幹事である。惜しいことである。本會事業の興隆は全く碩學諸先生の御鞭達と理事諸先生の御援助の賜である。厚く御禮申上る。國家多事の際、諸兄の發奮勉勵を祈りてやまぬ。

